



八月九日 四万六千日法要

青葉の笛だより

第25号

平成30年7月号

発行所：大本山 須磨寺

〒654-0071

神戸市須磨区須磨寺町4-6-8

TEL 078-731-0416(代)

<http://www.sumadera.or.jp/>

私の尊敬する御寺泉涌寺の長老様が、以下のようなお話になりました。

「昭和四十年以降、少子化のせいもあるが、親がさせないこともあり、家事の手伝いをする子供が非常に少なくなった。また親とか近所のコミュニケーションが希薄になって会話も少なくなり、自ずと家庭で仏壇に接する機会も、その習慣すらも薄れていった。そしてその子らが独立し核家族となって、その事を教える人もだんだんといなくなるという悪循環で、仏壇にもなじまないようになった。

祀らない、拝まないといった現象になり、今その子供らが親となって子育てをしている状態である。そのため、仏壇に礼拝し感謝をする事が少なくなっている。

現代人は歩く事さえ少なくなり、その運動不足が身体だけではなく頭(脳)や心(意)も固くし、ものの考え方が偏り、損得勘定が激しく、すぐにキレたり怒ったりして簡単に犯罪行為に走りながら、それを他人や社会のせいにして自分の行為を正当化しようとする。また何でもかんでも裁判に訴えるのだ、大変物騒で暮らし難い世の中になっている。もつと心の寛大な柔軟性のある和やかな、朗らかな、いつでも『ごめんなさい。ありがとう』

ございます。お陰様で』の言える日本人に戻れるように願っている。

もちろん、今も立派に仏壇を祀り、手を合わせて感謝し、一家円満に暮らしておられる家庭もたくさんある。温故知新の言葉の通り、以前のように子供の時から各家庭において、仏壇の大切さ必要性を感じさせ、先ず仏壇の本尊、続いて先祖代々、各諸精霊に礼拝し、日々の無事

健勝に感謝し、相互供養することによって、それが繁栄するのです」と、述べておられました。

平成十四年をピークに犯罪の認知件数は減り続け、現在は当時の半分になっています。しかしながら、なかなかそれを実感出来ません。長老様は「世相はますます悪くなり、一般的にもマナーが悪く、ルールを守らない自分本位の利己主義多欲者による憂えるべき事が多すぎる。現代人は『癒し』なる言葉に踊らされてペットに、快楽にと走り、また思うようにならないと『ストレス』という言葉を借りて、殺人等の凶悪犯罪や悪質な詐欺をはたらいている」とおっしゃり、「このような状況の中で生きている私たちがもう一度原点に戻り、勤勉努力の日本人、人の非ばかりを責めあうのではない、助け合える優しい日本人に戻り、諸外国のお手本となる治安の良い国となるのを願って止みません」とお話しになり、そのためにも前回紹介した「六波羅蜜の教えをもつと」と広め、殊に布施行と忍辱行と精進行を一層説いていく」と、力強くお述べになっていました。

皆さん、六波羅蜜を覚えておられますか？

合掌

大本山須磨寺 貫主

小池 弘三

十三佛に見守られて(8)

―地蔵菩薩(下)―

摩耶山天上寺貫主 伊藤 淨厳

今回は、地蔵菩薩の本願(誓願)とご利益について、少し敷衍して述べてみます。

お釈迦さま(釈尊)の滅後、弥勒菩薩が弥勒仏となって成道されるまでの間、すなわち五十六億七千万年というとても長く長い間、この世に悟りを開かれた仏さまがおられなくります。お釈迦さまは、その無仏の時代における衆生の済度(救済)を地蔵菩薩に付嘱(ふしよぐ)(依頼)されたのであります。

そのために、お地蔵さまは、この五濁(ごじよく)悪世の世界にあつて、六道に輪廻し迷苦にあえぐ衆生(死者も生者も)を哀れみ、教化と救済に専心されているのです。

※五濁―この世に存在する五つの汚

①劫濁―時代が濁り、疫病・飢饉・戦争などが多発する。

②見濁―よこしまで邪悪な見方や考え方がある。

③煩惱濁―貪り・怒り・迷いなどの煩惱が人の心を支配し、悪がはびこる。

④衆生濁―衆生の果報が衰え、心も体も虚弱になり、苦悩が増大する。

⑤命濁―衆生の健康寿命が次第に短くなる。

このお地蔵さまの衆生済度の大慈悲の働きを代受苦といひます。それ故に、お

地蔵さまは代受苦の菩薩といわれ、代受苦はお地蔵さまを特徴づける最も尊い誓願であります。

ちなみに、このような誓願を發されることを發願といひます。發願とは、菩提心(悟りを求める心)を起こして修行し、開悟する自利の願(目的)と、不退転の決意を持つて、衆生を悉く救おうとする利他の願を發することでありま。お地蔵さまは、この自利をも顧みず、利他に専念することを本懐とされている有難い仏さまなのです。

この代受苦の大願として、よく知られているのが、いわゆる十二大願であります。

①地獄に墮ちて地獄の苦患を受けている者に代つて、その大苦を受けてくださる。

②餓鬼道の苦を受けている者に代つて、その苦を受けてくださる。

③畜生の身になつて苦しんでいる者に代つて、その苦を受けてくださる。

④修羅道に墮ちて闘争と殺戮に明け暮れて苦しんでいる者に代つて、その苦しみを受けてくださる。

⑤人間界にあつて迷妄に苦しんでいる者に代つて、その苦悩を受けてくださる。

⑥短命の衆生には自分の寿命を分け与

えて長寿を得させてくださる。(延命地蔵)

⑦病気で苦しんでいる衆生に代つて、その苦痛を受けてくださる。

⑧悪政によつて苦しんでいる人々に代つて、その苦しみを受けて、人々に安らぎを与えてくださる。

⑨怨みをもつた者からの危害や、凶悪な者からの傷害に苦しんでいる者たちに代つて、その災難を引き受け、その苦しみを免れさせてくださる。

⑩貧しさに苦しんでいる者には、財宝を与えて救いとおつてくださる。

⑪よい行いをして、社会に役立つに相應しい地位を欲する者には、その願望を満たしてくださる。

⑫人間が死ぬときには、その臨終の場に現れて、お浄土へ導いてくださる。

この十二の誓願は、まことに有難く勿体ない慈悲の実践であります。

次に、お地蔵さまより受ける功德とご利益について、一説のみ紹介しておきます。よく知られているものに、『地蔵菩薩本願經』に説かれている「十種利益」があります。

すなわち、お地蔵さまのお名を唱えて礼拝し供養すれば、十種のご利益をいただけることと説かれています。

- (1)、土地が豊饒で豊作になる。
- (2)、家門が永く繁榮する。
- (3)、死後天に生まれ変わる。

(4)、現世では延命長寿に恵まれる。

(5)、もろもろの願望がかなう。

(6)、水火の災難がなくなる。

(7)、身体の疲れや衰えがなくなる。

(8)、悪夢を見て悩まされることがなくなる。

(9)、家にいても旅に出ても、神々に守護される。

(10)、仏にあうなど、多くの神聖なる巡り会いがある。

ところで、お地蔵さまには、実に多様な名前が付けられています。例えば、身代り地蔵・子安地蔵・とげぬき地蔵・汗かき地蔵・日限地蔵・一願地蔵・水子地蔵などなど。

これは、お地蔵さまが、全国津々浦々の老若男女に普く信仰されてきたことを示しています。これを要するに、人々の願いの数だけ、お地蔵さまはその願いに応じて、その姿を変え、あらゆる方便を駆使して衆生済度に尽力されているのです。いふならば、人々の願いの数だけお地蔵さまはおられるという訳です。この意味で、お地蔵さまは、私たちに最も近しく、馴染み深い仏さまなのであります。

このお地蔵さまは、五七日(死後三十五日目)の守り本尊であります。亡き人は普賢菩薩の教導を受けたあと、続いてお地蔵さまの下で、数々の有難い教えを受け、そのご利益をいただくのです。そして、更に次の六七日のお導師である弥勒菩薩の膝下に導かれるのであります。

四萬六千日燈明会 ゝみあかり観音ゝ



四萬六千日とは、観音様のご縁日で、この日にお参りすると、四萬六千日参詣したのに相当する功德を生ずると言われています。

須磨寺では、本堂において初盆精霊供養の法要を執り行い、引き続き境内にろうそくで形作られた巨大な観音様のお顔、みあかり観音の前で読経し、皆様方の所願成就・萬霊供養をご祈念申し上げます。その後、本堂前において和太鼓の奉納演奏などの催しもございます。ご知友お誘い合わせてご参拝下さい。

- | | | | |
|------------|------|--------|--------|
| 一、日 | 時 | 八月九日 | 午後六時より |
| 一、会 | 場 | 須磨寺本堂前 | |
| 一、ご供養・ご祈禱料 | ろうそく | 一本 | 千円也 |
| | 祈禱札 | 一体 | 三千円也 |
| | 経木供養 | 一霊 | 三千円也 |

◎須磨寺本堂前寺務所にてお申し込み下さい。

夏・秋の行事案内

◇七月・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○三十日(月) 子ども寺子屋修行

◇八月・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○九日(木) 四萬六千日燈明会 みあかり観音 〈午後六時〉 須磨寺 本堂

○十二日(日) 十五(水) 孟蘭盆会

○十五日(水) 盆大施餓鬼法要 〈午前十時〉 本坊客殿

○十七日(金) 青葉殿孟蘭盆会法要

〈午前九時・正午・午後三時〉 青葉殿

○十九日(日) 盆大施餓鬼法要 〈午後二時〉 櫻寿院本堂

○二十日(月) 盆大施餓鬼法要 〈午後二時〉 蓮生院本堂

○二十日(月) 二十一日(火) 盆大師(ご縁日)

◇九月・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○二十日(木) 二十六日(水) 彼岸会 特別護摩祈禱

〈午前十時・午後二時〉護摩堂

○二十日(木) 二十一日(金) 彼岸大師(ご縁日)

◇十月・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○八日(月) 須磨 夜音 音楽法要祭

○二十日(土) 二十一日(日) 大師縁日

◇十一月・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○十二日(月) 平家物語巡り法要

○二十日(火) 二十一日(水) 大師縁日

○二十三日(金) 秋の大祭 須磨の火祭り 柴燈大護摩供

〈午前十一時〉須磨寺 境内

須磨の火祭り

須磨の火祭りは屋外での柴燈大護摩供で、この一年を無事に終えた事を仏様に感謝し、火渡りによって身を清め新しい年を迎えるために晩秋に行います。火渡り神事とは火生三昧ともいわれ、柴燈護摩の終わりに火の上を渡る荒行です。浄火により災厄を破い福を招くといわれております。特に来年厄年を迎える方は、厄難消除のために、火渡りをして身を清め、新年をお迎え下さい。



記

一、日 時 十一月二十三日(金曜日) 午前十一時開白

一、会 場 須磨寺境内 ※荒天時は、護摩堂にて

一、ご 祈 禱 特別祈禱札 一万円・三万円・五万円

添護摩木 千円

一、火 渡 り 厄年特別火渡り 五千円

一般火渡り 二千円(先着百五十名)

※火渡り神事は荒行です。多少のやけどもございます。申込書の注意をよくお読みのうえお申し込み下さい。

一、お申し込み 須磨寺派各寺院にお申し込み下さい。

平成三十一年 厄年表

平成 十三年生(女性)	厄年	平成 七年生(男性)	小厄
昭和六十三年生(女性)	前厄	昭和五十四年生(男性)	前厄
昭和六十二年生(女性)	本厄	昭和五十三年生(男性)	本厄
昭和六十一年生(女性)	後厄	昭和五十二年生(男性)	後厄
昭和五十八年生(女性)	厄年	昭和三十三年生(男性)	厄年
昭和三十四年生(女性)	厄年		

アルケミークリスタルボウル・ヒーリングコンサート



中野 優子

アルケミークリスタルボウル・サウンドセラピスト
スピリチュアル・アロマセラピスト
高橋ヨガ研究所認定講師
イギリスオーラライト・カラーセラピスト
世界のお茶マイスター

正覚院では、平成30年5月より、毎月、阿字観道場にてアルケミークリスタルボウル・ヒーリングコンサートを行っています。水晶の響きが心と身体を癒します。ぜひお気軽にご参加ください。

各回
定員三十名

日 時: 7月22日(日)、8月20日(月)、9月20日(木)、
10月21日(日)、11月20日(火)、12月20日(木)

13時~14時

参加費: 1回 1000円

会 場: 須磨寺正覚院 阿字観道場

問合せ: 078-731-0374

持ち物:

- 寝転んで聴かれる方はタオルかヨガマット
- ペットボトル等の水
- ※小さなお子様はご遠慮ください。
- ※演奏途中の入場はお控えください。

～クリスタルボウルについて～

歴史: はるか昔から、クリスタル(水晶)が与えるヒーリング効果が確認され、古代アトランティス時代(約8万年前)にも、クリスタルボウルに似たものを使用していたという伝説が残っています。

製造: 天然水晶100%のものや、ローズクォーツ、アメジストなど美しい水晶、24金、プラチナなどの貴金属を混入したボウルなど、新しいタイプの高品質、高エネルギーのボウル(アルケミークリスタルボウル)が製造されています。ドから、オクターブ上のドまで、#を含む13の音階があります。種類に応じて音階は異なり、チャクラと呼ばれる私たちの各エネルギーセンターにも対応しています。

特性: クリスタルボウルの音(波動)は、私たちの耳で確認できる範囲をはるかに超え、500メートル以上にまで達すると言われています。人が聞こえる範囲から、聞こえない超音波にいたるまで、幅広い音域があり振動します。元の音の2倍、3倍、4倍～整数倍になる「倍音」を持ち、また振動が広がろうとする力「共鳴」があり、似かよった周波数を持つものには、全て反応し同調します。

～クリスタルボウル・ヒーリングについて～

人体は70%以上が水分です。クリスタルボウルの振動は、体の中のリンパ液、血液、骨にまで伝導していきます。骨髄や骨の中にもクリスタルと同じ元素があり、クリスタルボウルの振動によって共鳴し合うことが確認されています。体の細胞の隅々まで振動し、共鳴し合うため、血液を増大させたり、ストレスを減少させたり、体と心のバランスを取って深いリラクゼーションをもたらします。

人によって効果の表れ方はさまざまですが、一般的にはこんな効果があります。

- 心地よいリラックス感や解放感を促す。
- ストレスの軽減、解消。
- 神経組織にバランスをもたらす。
- 免疫力を高める。
- 肉体的なエネルギーやメンタルな集中力を増進させる。
- 脳が活性化し、感覚が敏感になる。

クリスタルボウルの演奏を聞く前後の変化を病院で実験したところ

- はじめ滞っていた血液の流れがスムーズに変化したことが確認されています。
 - 人体の水分が、音の振動を受けて動き出すので、全身の細胞が活性化されます。
 - 脳波は、はじめ活動的だったβ波(ベータ波)の状態から、落ち着いたα波(アルファ波)の状態に変わり、さらに瞑想している時と同じ状態のθ波(シータ波)の領域まで入っていきます。
- クリスタルボウルの豊かな響きに身をゆだねていると、自然と呼吸が深くなり、肉体的にも精神的にも、ストレスから解放されていきます。

いろはまつり

六月十五日は弘法大師空海様のお誕生日です。神戸では、神戸真言宗連合会が主催となつて、毎年六月十五日にお大師様の生誕をお祝いする「いろはまつり」が三宮の国際会館に於いて行なわれます。第一部は「奉讃詠歌舞踊大会」となっており、各講が御詠歌や舞踊を披露します。須磨寺御詠歌講も二曲御詠歌を奉納されました。第二部「式典」では、神戸市内真言宗寺院の住職・副住職が総出仕で法要が営まれました。第三部は毎年内容が変わりますが、今年は「まるこのいろ



劇団あじのこ

は寄席」と題して、僧侶で落語家の露の団娘さんによる仏教落語の講演がありました。最後の第四部は、毎年恒例の僧侶による劇団「あじのこ」による演劇です。今年は「我々は何処から来たのか、我々は何故祈るのか、我々は何処へ行くのか」を演じました。今回も劇団あじのこオリジナルの脚本でした。須磨寺からは、本坊副住職小池陽人、正覚院副住職朝倉経義が出演しました。一日盛沢山の内容で、ご来場下さったたくさんの方たちとお大師様のご遺徳を偲び、心安らぐひと時を過ごしました。

今回、須磨寺御詠歌で参加されました北野多恵子さんの体験談を掲載します。



須磨寺御詠歌講

三回目のいろは祭り

北野 多恵子

お大師様の御誕生日をお祝いするいろは祭り。須磨寺御詠歌教室としては三度目の舞台となりました。朝からの激しい雨にもめげず、皆さん日頃の練習の姿勢そのままの熱心さで集合場所に。この三年間、山本先生と亀谷さんのご指導のもと、暑い日も、寒い日も、雨の日も、風の日も、お休みすることなくお稽古に励んできました。

一年目は、無我夢中で周りも良く見えず、とにかく声が出せまうようにと祈りながらの奉詠でした。二年目は、少し会員数も増え、前回よりは落ち着いて、「明るく元気良く」をモットーに、皆で心を合わせての奉詠になりました。そして三年目。若い人も一人二人と入会され、さらに、嬉しい事に男性会員さんの入会もあり、声の幅に厚みが増し、力強いことでした。彼の参加によりこれからも男性会員が増える事を期待しています。

山本先生はじめ亀谷さんのご指導も、優しさだけでなく、時には厳しさも感じられるようになって来ましたが、大きな舞台でも伸び伸びと奉詠できるためには必要なことだと思います。

また、お教室には縁の下の方の力持ち的存在の方がおられます。おかげ様で、会の運営に大きなお助けとなっています。練習会場の机や座布団の設営、音響機材等のセッティング、運営に関わる記録とその管理、行事出演時の写真撮影や、大きく重たい大玄関の扉の開け閉め等々。その方が居なくては、私達のみだけではこの様に順調な発展は無かったと思います。

中高年（まだ老年ではありません）の私達は、時に思いもよらない病気に見舞われる事がありますが、幸せなことに、須磨寺教室の皆さんは、助け合い、手を差し伸べ、ねぎらいの声を掛けて……と、優しさに溢れた人たちの集まりです。

そして、そして、何時もそっと気に掛けて、励まして下さる管長様が居て下さることが、私達の大きな安心と励みになっています。

これが、須磨寺御詠歌教室です。
多くの皆様の見学・参加をお待ちしております。

須磨寺の歴史(二十一)

蓮華三昧院(一)

高野山の蓮華三昧院の院主は今年の十月十一日に明神奉送迎を迎えます。これはそのお寺に高野山の鎮守である高野明神をお迎えする儀式で、迎えた院主は一年間高野山からの外出を禁じられ、毎日明神様に礼拝を行います。期間は旧暦の九月三日から一年で、西暦にすれば二〇一八年十月十一日から二〇一九年十月一日までです。

この蓮華三昧院は『当山歴代』を見るといつの頃からかは分かりませんが、少なくとも江戸時代には須磨寺と本末関係結んでいたらしく、『当山歴代』には何回か須磨寺からの使者が蓮華三昧院に赴いたことが書かれています。今回から何回かにわたって須磨寺と蓮華三昧院が本末関係を結ぶ前と結んだ後にそれぞれどのような関係にあったのかを見ていきたいと思っています。

ところで今から三年前、平成二十七年(二〇一五)の四月十日にあった高野山開創一二〇〇年記念須磨寺法要の前日に須磨寺関係者が泊まった宿坊は蓮華三昧院ではなく、遍照光院という名前の寺院でした。現在の須磨寺の高野山における関係寺院は遍照光院となっているのです。次回から、遍照光院がどういう寺院で、蓮華三昧院とどういう関係があるのかも含めて書いていきたいと思います。

貞照寺三面大黒・再建工事

三月吉日に貞照寺に三面大黒が帰ってきました。この大黒様は貞照寺先代住職の龍心僧正が須磨寺大仏師の山高龍雲氏に依頼して作製したもので震災後の混乱の中、紛失していましたが貞照寺再建工事開始を目前に関係者が見つけ出し、山高氏の修復を経て帰ってくることができました。

三面大黒は三面六臂(三つの顔で腕が六本ある)で

正面に大黒天の、向かって左に毘沙門天、右に弁財天の顔があり米俵に乗り、向かって左の腕は毘沙門天の持ち物の三叉戟と宝棒に大黒天の持ち物の小槌を持ち、向かって右は弁財天の持ち物の鍵と宝珠、大黒天の持ち物の袋を持っています。また三面大黒は豊臣秀吉の念持仏だったと言われています。

貞照寺は再建工事中なので蓮生院の位牌壇に仮安置しています。三面大黒の縁日は毎月



三日なのでぜひお参りください。

また六月に入りようやく貞照寺再建工事が開始されました。今はまだ基礎工事が始まったばかりですが、来年から合祀墓の移転などの貞照寺周辺工事も始まり、来年秋の完成まで日に日に変化していきます。来年秋の完成まで参拝の方にご迷惑をお掛けすると思いますが、ご理解とご助力をよろしくお願いいたします。

平成三十年 年忌一覧

一周忌	平成二十九年亡	二十五回忌	平成六年亡
三回忌	平成二十八年亡	二十七回忌	平成四年亡
七回忌	平成二十四年亡	三十三回忌	昭和六十一年亡
十三回忌	平成十八年亡	三十七回忌	昭和五十七年亡
十七回忌	平成十四年亡	五十回忌	昭和四十四年亡
二十三回忌	平成八年亡	百回忌	大正八年亡

新西国巡礼の旅

須磨寺 副住職
小池陽人 同道

予告

9月から新西国巡礼の旅を始めます。この旅は、須磨寺副住職小池陽人が同道いたします。バスは1台で定員先着42名様に限定いたします。初めての方も、ご希望の回だけの方も大歓迎です。お気軽にご参加ください。定員に達し次第募集を締め切りますのでお早目にお申し込みください。詳細は追って境内に広報いたします。(ご注意：月日等は変更の可能性があります。)



須磨寺



能福寺



神呪寺



天上寺

第1回	9月8日(土)	須磨寺 ②④	能福寺 ②③	神呪寺 ②①	天上寺 ②②	—
第2回	10月(土)	太融寺 ②	鶴満寺 ③	飛鳥寺 ⑨	橘寺 ⑩	當麻寺 ⑪
第3回	11月(土)	水間寺 ④	道成寺 ⑤	宝亀院 ⑥	—	—
第4回	12月(土)	満願寺 ⑬	萩の寺 ⑫	神峯山寺 ⑭	楊谷寺 ⑰	—
第5回	1月(土)	立木山寺 ⑳	延暦寺 ⑱	—	—	—
第6回	2月(土)	鞍馬寺 ⑲	大報恩寺 ⑯	請願寺 ⑮	—	—
第7回	3月(土)	四天王寺 ①	金剛寺 ⑦	西方寺 ⑧	—	—
第8回	4月(土)	太山寺 ⑳	大谿寺 伽那院 ㉑	浄土寺(客番)	光明寺 ㉒	—
第9回	5月(土)	鶴林寺 ㉓	花岳寺 ㉔	斑鳩寺 ㉕	—	—
第10回	6月(土)	酒見寺 ㉖	金剛城寺 ㉗	瑠璃寺 ㉘	—	—

日時
場所

平成三十年十月八日
午後六時より
須磨寺 本堂

入場自由

記

夜のお寺の幻想的な雰囲気の中、僧侶の読経と音楽が織りなす祈りの世界を体感して頂き、それぞれの人の心に響く法要にしたいと思っております。そして、お寺に足を運んで下さる多くの方々が、それぞれ平和について考える一つのきっかけとなることのできれば幸いです。是非ご知友お誘いあわせてご参拝下さい。

創り出します。

法要の内容は、元ブルーハーツのドラマーの梶原徹也氏率いる「神紗」のドラム・和太鼓・舞・三味線の奉納演奏に加え、須磨寺の演奏とKiss FM神戸のサウンドクルー中野耕史氏の語り、そして昨年に引き続き天台聲明兵庫社会奉仕會と須磨寺の僧侶が共に声明を唱えます。天台宗の声明と真言宗の声明、宗派を越えて共に祈ります。法要の最後には、読経とドラム・和太鼓・舞がすべて重なり合い、祈りの世界を創り出します。

平成三十年十月八日十八時より、第四回となる「須磨 夜音 音楽法要祭」を執り行います。「夜音 音楽法要祭」は、平教盛をはじめとする源平戦士への供養と平和への祈り、そして度重なる災害における慰霊と復興の祈りを法要の趣旨としています。



須磨 夜音 音楽法要祭

真言声明と天台声明 平安の響き

お盆について

きたむらきぎん
北村季吟の詩によせて

まぎまぎと います が如し 魂まつり

江戸時代の俳人・北村季吟の代表的な俳句です。

まもなくお盆がやってきます。お盆にはご先祖様が我が家に帰ってくると信じ、食卓には故人が好きだった料理を用意し、ご先祖様とともに食べます。こうした日本の風習を「まぎまぎといます が如し」と詠んだのです。お帰りになったご先祖様ががっかりなさらないよう、丁寧に迎えたいものです。

先日大阪北部を襲った地震で、でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたします。そして一日も早い復興をご祈念申し上げます。大規模な災害が毎年続きます。そのたびに、我々人間の力では、どうすることもできない、自然の大きな力を感じ知らされます。我々は、自然とともに生きていくということ、を、今一度思い起こす必要があるのではないのでしょうか。文明社会で、

多くの人々は便利さや快適さを求め、物質的な豊かさが、即ち、人生における豊かさだと信じ、その結果、経済至上主義のもとひたすら進んできたように思えます。



お大師様に「潤水一杯朝に命を支え、山霞一咽夕に神を谷う」（かんすい いっぱいあしたにいのちをささ

え、さんかいちえんゆうべにしんをやしなう）というお言葉があります。即ち、朝には谷川の水で命を支え、夕方には山のかすみを胸いっぱい吸い込み英気を養い、自然の中にいてこそ生きる喜びを感じられる、という意味です。お大師様は常に大自然の中で修行することを好まれました。高野山を修行の道場として開創されたことからわかります。私たちは、都会で暮らしていても、毎日食べる食事は、すべて自然の恵みであります。つまり、どんな人でも生きていくということは、自然から恵みをいただいているということなのです。

日本では「八百万の神」という言葉が示すように、山・川・海・太陽・月など自然すべてに神が存在しているという信仰がありました。自然を神として信仰してきたということは、神を大切にすることが如く、自然を大切にできたということなのです。人々は、自然とともに生きていくという実感、人間の力をはるかに超える自然のエネルギーに対する畏敬の念をもっていたのでしよう。自然の猛威の前で、人間は無力です。何よりも、感謝と謙虚さを忘れてはいけません。

日本人は古くから、家に仏壇を祀り、日々、ご先祖様に感謝の祈りを捧げてきました。朝、ご飯が炊ければ、まず仏壇に供え、寝る前には一日無事に過ごせたことを感謝して、仏壇に手を合わせていました。自然の恵みがなければ、このお米一粒も、手にすることはできないのだということに思いを馳せます。そして自分ひとりでは生きてはいけないということに気づかれます。そこに謙虚さが生まれます。一日二十四時間の中で考えれば、手を合わせている時間はたった数分かもしれません。しかし、生活の中で必ず感謝する時間をもっていたのです。

お盆が来月に迫ってきています。冒頭の北村季吟の俳句にもありますが、ご先祖様が本当にそこにおられると感じ、普段の感謝を伝える時間を作ってください。特に、日々、ご先祖さまと対話する機会が少ないと感じている方は、どうぞ、お盆をその機会にしてみてください。長期休暇で旅行に行かれる方も多いかと思いますが、一日でもかまいません、ご先祖様と向き合う時間を作ってください。祈りの時間は、感謝の心・謙虚な心をもたしてくるはずなのです。